

平成26年度 長野県諏訪清陵高等学校・附属中学校自己評価表

※評価(達成度) 1:不十分 ~ 5:十分達成された

教育目標	取組	評価の観点	達成度 (5段階)	意見(本年度の取組・次年度への課題等) ○成果、◆課題、■改善策・向上策	(参考数値)
自分の頭で考えることの出来る生徒の育成をあらゆる機会を通じて行う。そのために、授業、HR活動、学友会活動、クラブ活動等のこれまでの在り方を見直し、研究・研修を行う。	①授業やテストにおいて、答えが一つではない発問を多くし、考え、発表し、討論するような機会を多く設ける。 ②HR活動において、自らの進路について自発的に調べ考える「場」を設定する。 ③SSH事業において、中高一貫教育における「学び方の学び」や融合型授業の研究・開発に取り組む。 ④学友会の諸機関と協賛して、生徒に自ら考えさせる指導を行う。 ⑤クラブ活動における顧問の適切な指導及び活動の保障を行う。	①授業やテストにおいて、答えが一つではない発問を多く取り入れたか。	4	○テストの中身を、基礎基本および知識理解の問題と発展的応用的な問題に分けて出題した。○各教科において言語活動の充実を目指した取り組みがなされた。 ◆新たな高大接続改革に対応した、学習指導や授業のあり方について、研究と準備をしていく必要がある。	・生徒学習状況調査 ・試験成績(模試、センター試験) ・生徒による授業評価
		②生徒を啓発し、自主的に取り組む「場」の設定や具体的な支援ができたか。	4	○懇談、日々の声かけ、電車手帳(生徒の日々の記録)のコメントなど、あらゆる場で支援をしてきた。○キャリア教育講演会では信州大学を中心に多くの講師をお招きし、生徒にとって進路を深く考えるいい機会となった。○文理科目選択において進路を考える機会を設定し、全員の間接も行った。	
		③生徒の自然科学に対する興味・関心を高め、学習意欲が向上する取組であったか。	5	○プロジェクターを使い、見るべきポイントを精選し、意識が途切れないような授業展開を考えた。	
		④学友会へ効果的な指導助言ができたか。	4	○生徒の学年に応じ、丁寧にサポートすることができた。	
		⑤クラブ活動の時間、場所を保障し適切な指導ができたか。	3	◆■会議等で職員が十分指導に関われない場面があった。また、中学生と高校生との活動で課題も見られた。次年度以降指導の体制を更に検討し、より良いものにしていきたい。	
生徒それぞれの進路希望実現のため、学習指導、キャリア教育等の更なる充実を図る。	①合同HR、講演会等により進路意識の向上を図り、進路研究への支援を行う。 ②実力テストや校外模試の分析と事後指導を行う。 ③生徒・保護者、職員への進路情報の共有を図る。 ④指導の継続及び改善のため、進路係と各学年間の連携を図る。 ⑤社会的・職業的に自立した人間の育成を目指すキャリア教育を推進する。 ⑥学習係を中心にした毎日の家庭学習・土曜講座・テスト前後・学習合宿等の学習の質と量の充実を図る。	①生徒の進路意識を向上させ主体的な進路選択ができるような取組ができたか。	5	○しっかりと方向性をもった進路指導を行った。○合同HRや講演会、模擬講義等を通じ、卒業後の進路や将来の職業について考える機会を多く提供できた。◆次年度以降を見据えた継続的な計画が必要。	・大学合格状況 ・実力テスト及び模試の検討回数 ・生徒意識調査 ・学習時間調査
		②生徒の自己目標実現のための指導に十分取り組めたか。	5	○自分の進路をしっかりと見つめられるよう指導を行った。○各学年が進路希望や学力に応じた様々な模試に取り組み、事前事後の指導もより強化できた。◆■高3は模試が多く、じっくり勉強できる週末が少なくなることもあり、そのバランスをとることが課題。○面談を中心に、生徒と話す機会を多く持つことができ、各個人の考えに寄り近い形で指導することができた。	
		③実力テストや校外模試が有効に活用されたか。	4	■中学の教員にとっては、学力推移調査は初めての経験であったが、非常に有効な手段であるという実感があり、今後より効果的に指導に生かしていきたいと考えている。○校外模試の結果は校内LANを活用し、より多くの情報を共有し指導に役立てることができた。◆■検討会の分析・検討、実践、検証のサイクルの連続。3年11月以降の学力伸長データの不足。	
		④進路情報が生徒・保護者、職員に適切に伝えられたか。	4	◆■中学生にとって6年後を見据えながらの指導を意識したが、経験が浅く、進路情報を自分たち義務の教員が有効に利用できたかに課題が残る。次年度更に活用していきたい。○進路係会の回数を増やし、定期的に学年間の情報交換を行った。また、校内LANを活用して、幅広い情報をより多くの職員に伝えることができた。	
		⑤進路係、各学年間の連携が十分に図れたか。	4	○進路係、学年と連携し、計画どおり実施することが出来た。◆■学校生活の様々な活動がキャリア教育であるという認識が教員間で共有できるよう、さらに連携を深める。○生徒の進路実現に向けて、学年団が同じ目的意識を持って取り組むことができていた。	
		⑥生徒の学習習慣が確立し、学習時間が増加したか。	4	◆■学習習慣の確立を指導の中心に据え、継続した指導をしていく。○1,2年学習合宿では長時間学習の経験ができた。年2回の学習実態調査では全体に家庭学習量の増加がみられる。◆■学習合宿はもっと近いところで、どの保護者アンケートの要望を受け、次年度は近くの施設も検討中である。	
生徒一人ひとりの心身の状態、発達段階に留意し、不登校、特別支援、SST等の新たな知見を踏まえ、スクールカウンセラーとの連携も深め、きめ細かな生徒指導を行う。	①外部機関等との連携を図りながら、生徒の自主的・自立的な心身の健康管理を実施する。	①生徒の状況をつぶさに観察し、生徒の相談に十分に対応できたか。	5	○細かい点にまで学年職員は意識し、常に情報交換を行い、後追いの指導ではなく、先取りの生徒指導を行った。	・生活実態調査
		②生徒の自主性・自立性に寄与する指導ができたか。	4	○中1の段階は、しつけの段階と意識し手を入れた。 ■今後次第に距離を置く指導へ移行していく予定である。	
		③地域社会の人々、特に周辺住民から応援されるような学校になっているか。	4	○■中学では、地域との関係で、あいさつやゴミ拾い登校、雪かきを行った。更に地域から応援される学校を目指し、努力したい。○「清水ヶ丘たより」を地域にも配布した。	
		④生徒自らが心身の状況を主体的に把握することができたか。	4	◆■手洗いうがい予防や歯磨き等の健康管理がまだまだ定着しておらず、今後も指導が必要である。	
学校を内外に開き、保護者との連携も密にし、いじめや体罰のない学校をつくる。	①ウェブサイトを広く活用し、本校の教育活動を広く伝える。 ②いじめを絶対に許さない校風を維持する。 ③生徒同士や、生徒と教職員とが共に互いの人格を尊重しあう学校づくりを行う。	①ウェブサイトを見やすいものにするのができたか。	3	○■定期的に情報発信ができたが、更に情報の内容を工夫していきたい。	・ウェブサイト更新回数 ・広報紙発行回数 ・授業公開来校者数 ・いじめに関するアンケート
		②本校の教育活動を保護者、中学校、地域住民等に十分に伝えられたか。	4	○毎週定期的に学年通信という形で、学年職員が足並みをそろえて情報発信をすることができた。	
		③いじめの未然防止のために、機会をとらえての指導ができたか。	4	○生徒との人間関係をよりよく構築し、常に生徒の表情、行動などを観察する中から、気になる場面では早めに声かけをおこなった。○いじめに関するアンケートや面談等によって浮かび上がる些細な事案を看過せず、学年集会を再三催して、いじめの未然防止を強く図った。	
		④いじめの早期発見につながる相談体制が十分に機能しているか。	4	○共通理解のもとに協力するとともに情報交換を細かく行ってきた。○学級担任のみならず、他クラス担任や副担任も一体となって取り組んだ。○家庭訪問や保護者面談も実施した。	
		⑤生徒・教職員ともに、人権意識の向上が図れたか。	5	○いろいろな人の想いがあって今があるという話を機会があるごとに考え合い、相手の思いを大切にできる人間づくりを目指し指導をしてきた。○上記③④を通して、いじめは絶対に許さないという姿勢は浸透したのではないが、■クラブ単位での指導と、クラブ顧問との連携も今後ますます重要になる。	